

## 肥料のあれこれ その2

今月号は、先月後に引き続いて、肥料の説明をします。

### サンライム

カキガラを原料とした動物性石灰肥料で、アルカリ成分は46%です。土壌の酸性矯正のために用い、作物に必要な微量元素を多量に含んでいます。施用の目安としては100~200kg/10aですが、土壌条件や作物によって適時加減します。

### 炭酸苦土石灰（ニューマグ）

石灰岩を細かく粉砕したもので、石灰と苦土を合わせたアルカリ分が53%以上で、苦土は5%以上が保証されています。炭酸苦土石灰はカルシウムとマグネシウムの補給、土壌酸度の矯正（PH）を目的に使用する土壌改良材です。（サンライムと同様）

酸性土壌を好むスギナやカヤツリグサなどが発生しますと、酸度矯正が必要となります。 施用時期の目安は定植2週間前の堆肥施用後化成肥料施用前です。

### トミー液肥

窒素の多くが有機態窒素で、各種アミノ酸や水に溶けやすい炭水化物・ビタミンが含まれています。これら有機物中に含まれるアミノ態窒素はかなり速効的に作物に吸収され、水に溶けやすい炭水化物は根から直接吸収されて発根を促します。但し高温多湿時に多く施用すると、急激な分解により有機酸や炭酸ガスが発生し生育が阻害されることがありますので注意してください。

野菜全般に適し通常は300~500倍液で施用します。

### ひびき585（液肥）

アミノ酸（グリシン）と海藻エキスを含む有機入り液肥です。葉面散布の場合は、通常300~500倍に希釈し生育を見ながら適時施用します。なお石灰硫黄剤などアルカリ剤とは混用しないでください。

### VSゆたか

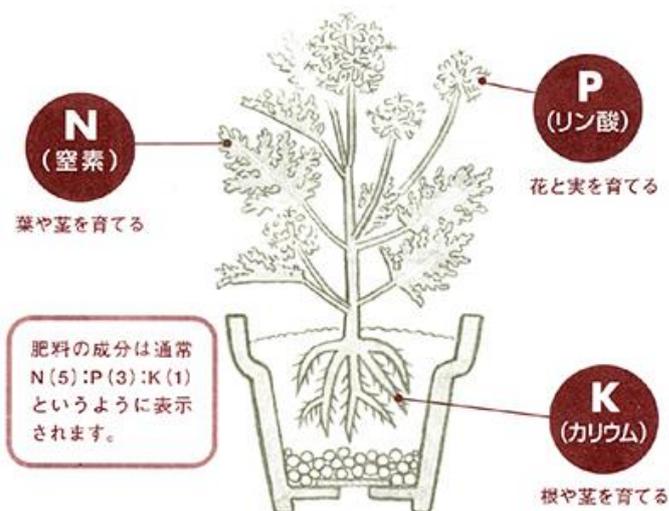
微生物発酵有機質肥料で、有機原料をVS菌により発酵させたものです。

元肥、追肥として使用し10aあたり5袋（1袋15kg）~15袋が目安になります。

### ひかり286号

窒素14%リン酸18%加里16%を含む高度化成肥料です。水稻や野菜の元肥として施用します。

特徴としてリン酸を主成分としており、粒の周りを珪藻土で包んで、吸湿・固結を防止しています。



	役割	備考
窒素(N)	タンパク質を作り、葉緑素の元になる肥料で、植物の生育初期に葉や茎を育てるための必要不可欠な肥料成分。	窒素が不足すると、葉が黄色く変色し、落ちてしまいます。茎の伸びが悪くなり、成育の障害になる。
リン酸(P)	植物全体の生育を調整し、根や茎を丈夫にする。また、花や実、球根などを太らせる働きもある。	リン酸が不足すると、全体に脆弱な植物になる。
カリウム(K)	植物の細胞質の成分になり、花や実の成長を促進させる。	カリウムが不足すると、植物全体の抵抗力が低下し、害虫の被害に合いやすくなる。

## ○野菜類の塩づけ

### 塩の使い方

つけものの中で一番基本的なことは塩づけです。塩の使い方が悪いと、十分な塩の量を使ってもそれだけの効果を果たしてくれません。大事なものは、つけものの全体に平均して塩が溶けるようにすることです。塩水は真水より比重が重いので、樽の底のほうへ沈みやすいので、塩は上のほうへ多めにしなければなりません。したがって塩をたす場合も表面にふれば樽全体に溶けていきます。

### 荒づけ（下づけ）と本づけ

野菜を塩づけする方法には、1回だけつける荒づけと2回つける本づけがあります。保存づけには野菜の余分な水分を除くため2回づけが多くなっています。野菜は90%以上も水分があるので、荒づけによって多量のつけ液が出ます。このつけ液を捨てて塩を足して本づけにします。例えば浅づけもいったん2~3%の塩で荒づけし余分な水分を除き、2~3日後にさらに調味液やつけ床につきます。これによって調味料の無駄もなくなります。きゅうりやなすの塩蔵の場合は、原料野菜の8~12%ほどの塩で荒づけし、本づけでさらに下づけの目方の5~7%の塩を足し、つけ上がりの塩分を15%くらいにします

### さし水

白菜やなすなど塩づけにつけ込んだ場合、すきまが多いのでなかなかつけ液が上がってきません。そのような場合つけ液の上がりを早めるために、さし水（呼び水）をします。さし水は一般に5~10%の塩水を樽のへりから底のほうに流します。押しぶたの上からつけもの全体にかけると、つけものについている塩もいっしょに溶かして、樽の底のほうに沈ませてしまうのでよくありません。（文章引用 「ながのうまいもの家庭の味・伝統の味」 長野県農業改良協会発行）

詳細は、ながの農業と生活誌 8月号に掲載しておりますので、そちらを参照して下さい。

## ○漬物用大根

漬物用大根は、秋まき品種が大多数を占め「硬さ」「肉質」といった品質をこれまで重視してきました。これは、たくあんの製造には多くの工程があるため、製造過程でのロスを減らし、加工歩留りを向上されるためと考えられています。漬物用大根は、各種苗会社、各地域の地大根等がありますが、種子の入手はJA やあさつゆ直売所で購入し必ず品種特性を確認して購入してください。また地大根の中には地域限定や会員でなければ入手できない場合がありますので、注意してください。地大根では山口大根が知られていますが、種苗会社からは信州地大根の種子が販売されています。

畑では、又根の原因となる石など取り除き、大きな土の塊は取り除いておきます。1㎡当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、化成肥料50gを施します。水はけの悪いところは高畝にし、必要に応じてマルチングをします。出芽後間引きを2~3回に分けて行います。間引きと同時に除草を兼ねながら土寄せを行い本葉5~6枚になったら一握りの化成肥料を追肥します。台風の季節になりますので、風で振り回された折れないようしっかり土寄せを行いましょう。



「山口大根」

### 今月の画像

- ★路地トマトの植え付け
- ★播種機による種まき講習会(あさつゆ農園)
- ★もろこしの消毒
- ★しめ飾り用、稲の生育の様子

電子版はあさつゆレジにて

### あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

E-mail：asatsuyu.55@uedjanis.or.jp

### 技術事項作成協力

中小農業改良普及センター（近藤・岡崎）

電話番号：0268-25-7156（直通）